

八学光星・2年連続

夏に挑む

Ⓣ

青森県大会は、昨秋が初戦敗退、今春が準Vだった八学光星。今のチームは県レベルで優勝経験がなかったが、夏の甲子園出場を懸けた7月の本番では勝負強さを発揮した。

初戦の弘前工戦では対応力が光った。相手先発は最速150kmの直球が武器のプロ注目右腕だったが、変化球中心の配球と分析。主砲の中澤恒貴主将は二回、スライダーをはじめ返して同点に。四回にもスライダーを振り抜き、今度はスタンドに運ぶなど、チーム全体で2桁得点を挙げて快勝した。

続く3回戦も、10安打11得点で大勝し、準々決勝の相手は昨秋の県大会で苦杯をなめさせられた弘前東。打ちあぐねた、緩い球を駆使用する左腕をしつかりと攻略した。4安打2打点と活

大一番で勝負強さ



東北王者の意地見せつける

躍した池田優斗は「緩い球を引き付けて打つ冬の練習で克服できた」と胸を張った。投手陣も大一番でさらに

成長した姿を示した。準決勝の青森山田戦で先発したのは、2年生左腕・洗平比呂。課題の初回を三者凡退で切り抜けると、リズムに

乗り、公式戦で自身初となる6安打完封。「足が速い、一発があるなどいろんな打者がいる。一人一人のタイプを頭に入れながら投げら

新する148kmの直球をマークした岡本は「筋トレや食事にすごく気を使ってきた成果かな」と自信を深めた様子だった。

れた」。緩急を効かせて打者を手玉に取り、ライバルを撃破した。

春の東北王者の意地を見せつけて頂点に立ったが、大舞台で勝ち切るために足りないものも見えてきた。好投手の攻略、ここ一番での守備の踏ん張り、1点を争う緊迫した場面での走塁…。仲井宗基監督は「ああいうミスは甲子園では絶対に許して欲しくない。しっかりと話していく」と気合を入れ直した。

そして、決勝の相手は今春の県大会決勝で敗れた工大一。昨夏と同じカードとなった試合は八回に追い付かれ、2-2で史上初の決勝タイブレークに突入する大接戦となった。延長十回、池田が好投を続ける相手エースのスライダーを左前にはじき返し、これが決勝点。投手陣は洗平、岡本琉奨の両左腕が力投を見せた。

第105回全国高校野球選手権大会はきょう3日、大阪市内で組み合わせ抽選会が行われ、八学光星の対戦相手が決定する。実力を発揮し、東北大会以降、勝ち進んできた勢いを維持できれば、さらなる飛躍が期待できるだろう。

この試合、自己最速を更新し、接戦となった決勝で優勝を決め、マウンドに駆け寄って喜ぶ八学光星ナイン。7月27日、弘前市はるか夢球場

(千葉達也)